

整形外科研修カリキュラム

研修目標

Ⅱ 研修目標

1. 一般目標

(1) 特有の研修内容

整形外科の診療現場を体験し、四肢の骨・関節、脊椎における外傷、変性疾患、腫瘍、炎症性疾患などについて学ぶ

(2) プライマリケア

外傷の診察治療は、プライマリケアに直結している。緊急の外傷や整形外科疾患の多彩な愁訴に幅広く対応する知識や技術を習得する。

(3) 基本的知識の習得

運動器疾患の診断、神経系疾患の診断、基本的な縫合などの手術手技、ギプス固定手技の習得など

2. 行動目標

A. 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 基本的整形外科診療能力

① 問診および病歴のカルテ記載

患者さんとの間に良いコミュニケーションを保って問診を行い、総合的かつ全人的に patient profile をとらえることができるようになる。

② 整形外科診察法とカルテ記載

視診、触診、関節可動域評価、筋力評価、神経学的検査

(2) 基本的整形外科臨床検査

整形外科診療に必要な種々の検査を実施あるいは依頼し、結果を評価して患者さんや家族に分かりやすく説明することができる。それぞれの病態で禁忌である検査法があることを十分に理解する。

① 放射線学的検査（X線、CT、MRI、シンチ、骨密度）

② 血液、尿検査

③ レントゲン透視下での関節造影検査や動態撮影

④ 関節穿刺検査、経皮的針生検検査

(3) 整形外科研修の場において学ぶべき具体的な基本的手技

目的、方法、種類、合併症、禁忌について述べる事が出来、物品の準備と実施する事が可能となる

① 包帯法：創傷部の被覆・保護、圧迫固定、シーネ固定、ギプス固定

② 注射法：皮内、皮下、筋肉注射、関節穿刺、関節内注射、仙骨硬膜外ブロック、

点滴、静脈確保

- ③ 採血法：静脈血、動脈血
- ④ 穿刺法：関節穿刺、腰椎穿刺
- ⑤ 局所麻酔法：手術時局所麻酔、穿刺検査時局所麻酔
- ⑥ 創部消毒とガーゼ交換：外傷、手術創部
- ⑦ 簡単な切開と排膿：皮下膿瘍、感染性粉瘤など
- ⑧ 皮膚縫合法：外傷、手術時の創部の縫合、糸結び
- ⑨ 軽度外傷、開放性外傷の処置
- ⑩ 感染制御：手洗い、手指消毒、処置・手術時の清潔操作など
- ⑪ 外来における外科処置：切創・挫創の処置（⑤～⑩を含む）
- ⑫ 輸血：手術時の自己血、輸血。外傷による出血に対する輸血

（４）基本的診断、治療法、説明

診 断：整形外科診療、診察法、臨床検査により鑑別診断が行える

治 療

- ① 処方箋の発行
 - １． 薬剤の選択と薬用量投与上の安全性
 - ２． 投与上の安全性
- ② 注射の施行（学ぶべき基本手技②注射法を含む）
- ③ 包帯法などの固定法、安静度の指示（学ぶべき基本手技①を含む）
- ④ 手術：助手として手術に参加する（学ぶべき基本手技⑧～⑪を含む）
- ⑤ 術後管理：病棟での担当医となる
- ⑥ 理学療法（方法と患者さんへの指導、理学療法士との連携）
- ⑦ 治療後の評価。副作用の評価ならびに対応

患者さんへの説明および支援：検査結果、鑑別診断、治療内容の説明

B. 経験すべき症状・病態・疾患

研修の最大の目的は、患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得することにある。

（１）頻度の高い症状

- ① 腰痛
- ② 関節痛
- ③ 歩行障害
- ④ 四肢のしびれ
- ⑤ 腫瘍

必修項目：下線がついている症状は初期研修期間に置いて、必須項目であり、経験（自ら診療し、鑑別診断を行う事）し、レポートを提出することが必要とされる

（２）緊急を要する症状・病態

- ① 外傷
- ② 脊髄麻痺
- ③ 感染症

必修項目：下線のついている疾患・病態を経験（初期治療に参加する事）することが必要とされる

（３）経験が求められる疾患・病態—理解しなければならない基本的知識を含む—

- ① 骨折
- ② 関節の脱臼・捻挫・靱帯損傷
- ③ 骨粗鬆症
- ④ 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）

具体的な症例（指導医のもとで）

- ① 骨折：四肢骨折患者さんの部位・骨折型の診断、治療法の検討など治療前より担当
- ② 関節の脱臼・捻挫・靱帯損傷：外来患者さんの診察、診断、治療など
- ③ 骨粗鬆症：外来診療時に骨粗鬆症を疑った患者さんの診察・検査・治療計画
- ④ 脊柱障害：腰椎椎間板ヘルニアを疑った患者さんの診察、検査、治療計画

C. 整形外科研修で特に学んでいただきたいポイント

- 1）外来診療もしくは入院受け持ち医として、骨折・外傷など急性期疾患をできるだけ多く経験し初期治療に参加する（**必修項目とされている**）。
- 2）経験した症例（**特に頻度の高い症状として腰痛、四肢のしびれについてはレポート提出が必須とされている**）について診療、鑑別診断を行いレポート提出する。
- 3）診療内容についてカルテ記載ができる。
- 4）関節、脊椎、腫瘍などの慢性疾患の手術・診療にも積極的に参加する。
- 5）指導医のみならず、他科の医師や医療スタッフとの連携、コミュニケーションをはかる。（整形外科では特に看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士などの医療スタッフとの関わりが大きくなります）

研修方略

研修スケジュール

整形外科は、四肢の骨・関節・脊椎・腫瘍を中心にあつかう外科的な臨床分野である。臨床研修中に、外傷を中心に関節・脊椎・腫瘍・炎症性疾患など、できるだけ多くの疾患を診察し手術に参加、また救急時の処置・術前術後の管理を経験することを目標とする。

【週間スケジュール表】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝		リハビリカンファレンス			
午前	外来・病棟	手術	病棟・外来	病棟	病棟・外来
午後	外来・病棟	手術 症例検討 (外来新患)	手術	手術 症例検討 (手術)	手術 検査

研修評価

研修評価は、研修修了時（～その1ヵ月以内）担当指導医が、EPOC-オンライン評価システムにて評価する。最終評価は、まつもと医療センター病院群臨床研修管理委員会でその委員会規定に基づいて行う。

<指導体制>

若林真司	H5年卒	整形外科専門医、運動器リハビリテーション認定医
磯部研一	H7年卒	整形外科専門医、運動器リハビリテーション認定医 整形外科認定リウマチ医、整形外科認定スポーツ医